

後悔のない未来

前橋市立明桜中学校 三年 福島 菜緒ふくしま なお

人間の平均寿命は約八十年、その二分の一ほどの約四十年は仕事のために費やす。人生のうち半分もの時間をかける仕事において、私は妥協したくない。

私の母は中学校を卒業すると、保育の高校と大学に進学した。そして今も保育士として働いている。母は中学生の時に、自分の人生を決めたようなものである。毎日疲れた様子で帰ってくるが、仕事について話す姿は、いつも生き生きとして見えた。

なぜ、この職業を選んだのか、母に尋ねると進路の先生と相談して「こんな道もあるのか。」と何か魅力を感じたからだと言った。特にはつきりとした理由もないようなので、新しい選択肢にフラフラッと寄っていったところだろうか。私はそれを聞いて、母らしいと思ったが、羨ましいとも感じた。なぜなら気軽に判断で選んだとしても、今の後悔のない母に繋がるからだ。

しかし母は、「そこまでこの仕事は好きではない。」と照れながら言った。先ほど述べたような進学理由なら仕方ないと思ったが、ひっかかる点がいくつかある。というのも、母は保育園で使う飾りや道具を作る時には、納得のいくものにしたいたいと家で作業をしていることがよくある。そして、私に今まで見せてくれたものは、どれも完璧に仕上げていた。母がよく園児にせがまれるというマジックは、いつも入念に、演目や構成を考えて、準備し練習している。家族の前で、披露してくれた時には、我が母ながら、こんな先生がいたらうれしかったなと感じた。母はこの仕事が好きではないと言うわりに全力で取り組んでいた。なぜそこまで頑張れるのだろうか。すると母は、「何事も楽しみを探すようにしているよ。どんな時でも、楽しいと思えば頑張れるから。考え方次第だよね。」と言った。その言葉は、園児が「落とし穴作ろう。」と言うつもりで「おとしだま作ろう。」と言って誘ってきたことを面白そうに話した母の姿と結び付いた。とても納得することができた。仕事について話す時、生き生きとして見えるのは、全力で頑張れるのは、楽しみを探して、見つけて、実感しているからだだったのだ。「母のように気軽に選んだ道でも後悔のない未来に繋がる」という認識だったが、それは母自身の「楽しもう」という意識があったからだろう。だから後悔のない未来には、自分自身で「繋げる」意識が必要なのだ。また母は「後悔しない道を選ぶことができた」のではなく、「選んだ道を後悔のないものにしようとしている」のだ。

つまり、将来の仕事は気軽に考えても慎重に考えても、何を選んでもそれほど大差ない。大事なものは、その後の四十年間で、いかに後悔を残さないよう勤めるか、だと思う。

母と話して気付いたことは、何かを決断する時の理由は、大きなものでも小さなものでも、良いのだということ。理由はきつかけに過ぎなくて、やはり日々の積み重ねが自分の行くべき道を作っているのかもしれない。母のまねをしても同じような生き方にならないと思うけれど、自分の「今」を大切に素直にそして丁寧に過ごしていけば、自分らしい人生を送っていけるような気がする。

勉強も大切だが、友達と語り合ったり、時にはぶつかったり、新しいことにチャレンジしたりするなど、今しか出来ない事や今なら出来る事に自分から飛び込んでいきながら自分らしさを見つけていきたいと思う。今は、母のように人と関わる仕事につきたいと強く思っている。例えば、母と同じ保育士、医療関係、学校など、一つに絞ることはできないが、自分の未来を楽しみに迎えられるように、しっかりと過ごしていきたいと思う。